

南京航空航天大学

2013 年硕士研究生入学考试初试试题 (A 卷)

科目代码: 624

科目名称: 基础日语

满分: 150 分

注意: 认真阅读答题纸上的注意事项; 所有答案必须写在答题纸上, 写在本试题纸或草稿纸上均无效; 本试题纸须随答题纸一起装入试题袋中交回!

一. 文字と語彙 (30 点)

問題 . 次の語句の漢字に振り仮名をつけなさい。(0.5 点 × 20 = 10 点)

麻雀 ()	強引 ()
口利き ()	憚る ()
詐欺 ()	仕組み ()
底力 ()	権化 ()
咀嚼 ()	拳 ()
灘 ()	大方 ()
鰐鮫 ()	夕闇 ()
海鳥 ()	稻葉 ()
神楽 ()	素顔 ()
奇矯 ()	巫女 ()

問題 . 次の下線を引いた語句の仮名部分を漢字に直しなさい。(1 点 × 20 = 20 点)

ろうそく () の光が消えていくのをじっと見ている彼女の姿は印象的なものだ。

祥子は、はだか いっかん () より、縄一本でも持ちたがっている。

上司の話をなかなか こころえ () ていなく、戸惑っている。

店長は、自分の いさん () だと納得してみなさんにお詫びをしたことに感服した。

観客はそれぞれ、自分の かんきょう () のある芸術品をみている。

早朝の あかねいろ () は、なかなか素晴らしい眺めだ。

天気予報によると、夕方から ふぶき () があると聞いて、人々は早めに家へ帰った。

今日は好天に恵まれなく、すなけむり () もたっている。

食堂の したばたらき () で、その調理法を覚えた。

試験が終わったら、とっぴ()なことでもやろうかとずっと考えている。

いまの説明を聞いてから、速くふしん()をしようとする人も出た。

この店はこの辺で名の知られたしにせ()だと聞いている。

私などはその人のやり方は彼のすじょう()で決めたと考えるしかない。

留学に行くかどうかちゅうちょ()して苦しいのは当然だ。

彼がいたずらしたので、じごうじとく()といわれてもしょうがない。

ようじょう()には様々方法があるが、一番のものは欲張りをしないこと。

旅人はこうり()を運ぶ車が無くて困っている。

彼が言った話はずさん()したものだと思いながら信じてしまった。

目的地に近づくにしがって、胸のやくどう()も高まってくる。

これは、家庭主婦にとっても、いうまでも、台所のちょうほう()だとされている。

二．文法(40点)

問題 . 次の語群から適当な傾向を表す表現を選び、下線部に入れて文を完成しなさい。必要な場合は適当な活用形にして入れなさい。選択肢は一回のみ使うこと。(1点×10=10点)

ともすれば、そこそこ、そわそわ、しかるべき、ひっそり、
いじらしい、とばかり、にしては、がてら、もとより

彼_____、これは何よりのチャンスだと思う。

こんな空模様で、空を飛んでいる小鳥はいかにも_____見える。

毎日美味しく食べられることを作ってくれる人々に感謝して_____だろう。

試験期は_____寝つきが悪い。

仕事_____ネットでショッピングをするのはだめだ。

これだ_____に人々は押し寄せて買うようになった。

もうすぐ年末になるのか、店長は毎日_____と出たりはいたりしてとてもいそがしい。

夜中、その人はあの店に_____入っていてどうも変な人だ。

新年だか、なんだか、街を歩く人々はなんだか_____しているように感じる。

_____働く人はそれなりの報酬がもらえるべきだ。

問題 次の言葉を使って完全な文を作りなさい。(3点×10=30点)

そもそも～

～ようが～ようが

～たらば～たで

～それでいて

～ようにして

～に等しい

いくらなんでも

～ないまでも

～はおろか～も

まさか

三．読解(30点)

問題 次の文章を読んで、 から までの質問に答えなさい。(～ 3点×2=6点、
～ 6点×4=24点)

学問のすすめ 初編(福沢諭吉)

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と言えり。されば天より人を生ずるには、万人は万人皆同じ位にして、() 貴賤上下の差別なく、万物の靈たる身と心との働きをもって天地の間にあるよろずの者を資り、もって衣食住の用を達し、自由自在、互いに人の妨げをなさずしておのおの安楽にこの世を渡らしめ給うの趣意なり。されども 今広くこの人間世界を見渡すに、かしこき人あり、おろかなる人あり、貧しきもあり、富めるものあり、貴人もあり、下人もありて、 その有様雲と泥との相違あるに似たるは何ぞや。その次第甚だ明らかなり。「実語教」に、「人学ばざれば智なし、智なき者は愚人なり」とあり。されば賢人と愚人との別は、学ぶと学ばざるとに由って出来るものなり。また世の中にむつかしき仕事もあり、やすき仕事もあり。そのむつかしき仕事をする者を身分重き人と名づけ、やすき仕事をする者を身分軽き人という。すべて心を用い心配する仕事はむつかしくして、手足を用いる力役はやすし。()、医学、学者、政府の役人、または大なる商売をする町人、あまたの奉公人を召使う大百姓などは、身分重くして貴き者というべし。

身分重くして貴ければ自ずからその家も富んで、下々の者より見れば及ぶべからざるようなれども、その本を尋ねればただその人に学問の力あるとなきとに由ってその相違も出来たるのみにて、天より定めたる約束にあらず。諺に云く、「天は富貴を人に与えずしてこれをその人の働きに与うるものなり」と。されば前にも言える通り、人は生まれながらにして貴賤貧富の別なし。ただ学問を勤めて物事をよく知る者は貴人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人となるなり。

学問とは、ただむつかしき字を知り、解し難き古文を読み、和歌を楽しみ、詩を作るなど、世上に実のなき文学を言うにあらず。これらの文学も自ずから人の心を悦ばし

め随分調法なるものなれども、古来世間の儒者和学者などの申すよう、さまであがめ責むべきものにあらず。古来漢学者に世帯持の上手なる者も少なく、和歌をよくして商売に巧者なる町人も稀なり。これがため心ある町人百姓は、その子の学問に出精するを見て、やがて身代を持ち崩すならんとて親心に心配する者あり。無理ならぬことなり。畢竟その学問の実に遠くして日用の間に合わぬ証拠なり。

されば今かかる実なき学問は先ず次にし、専ら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり。譬えば、いろは四十七文字を習い、手紙の文言、帳合の仕方、算盤の稽古、天秤の取扱い等を心得、なおまた進んで学ぶべき箇条は甚だ多し。地理学とは日本国中は勿論世界万国の風土道案内なり。究理学とは天地万物の性質を見てその働きを知る学問なり。歴史とは年代記のくわしきものにて万国古今の有様を詮索する書物なり。経済学とは一身一家の世帯より天下の世帯を説きたるものなり。修身学とは身の行いを修め人に交わりこの世を渡るべき天然の道理を述べたるものなり。

これらの学問をするに、いずれも西洋の翻訳書を取調べ、大抵の事は日本の仮名にて用を便じ、或いは年少にして文才ある者へは横文字をも読ませ、一科一学も実事を押え、その事に就きその物に従い、近く物事の道理を求めて今日用の達すべきなり。右は人間普通の実学にて、人たる者は貴賤上下の区別なく皆悉くたしなむべき心得なれば、この心得ありて後に土農工商おのおのその分を尽し銘々の家業を営み、身も独立し家も独立し天下国家も独立すべきなり。

問題 ()に入るのはどれか、最も適当なものを次から一つ選びなさい。

- | | |
|----------|----------|
| 1. 生まれつき | 2. いきながら |
| 3. 生れながら | 4. それながら |

問題 ()に入るのはどれか、最も適当なものを次から一つ選びなさい。

- | | |
|----------|----------|
| 1. そうすれば | 2. もって |
| 3. 故に | 4. のみならず |

問題 下線 の質問に答える作者の見解を述べなさい(文章の言葉でもいい)。

問題 下線 に「学問とは、」あるが、それについて、作者の見解を述べなさい(文章の言葉でもいい)

問題 下線 はどういうことか、簡潔に説明しなさい。

問題 下線 の意味を簡単に説明しなさい。

四．翻訳(30点)：

問題 次の古文を現代日本語に訳しなさい。(15点)

徒然草 第五十二段(吉田兼好著)

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、ある時思ひ立ちて、たゞひとり、徒歩より詣でけり。極楽寺・高良などを拝みて、かばかりと心得て歸りにけり。

さて、かたへの人にあひて、「年比思ひつること、果し侍りぬ。聞きしにも過ぎて尊くこそおはしけれ。そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず」とぞ言ひける。

少しのことにも、先達はあらまほしき事なり。

問題 次の古文を現代日本語に訳しなさい。(15点)

徒然草 第十九段徒然草 (吉田兼好著)

七夕祭るこそなまめかしけれ。やうやう夜寒になるほど、雁鳴きてくる比、萩の下葉色づくほど、早稲刈り干すなど、とり集めたる事は、秋のみぞ多かる。また、野分の朝こそをかしけれ。言ひつゞくれば、みな源氏物語・枕草子などにこと古りにたれど、同じ事、また、いまさらに言はじともあらず。おぼしき事言はぬは腹ふくるゝわざなれば、筆にまかせつゝあぢきなきすさびにて、かつ破り捨つべきものなれば、人の見るべきにもあらず。

さて、冬枯のけしきこそ、秋にはをさをさ劣るまじけれ。汀の草に紅葉の散り止まりて、霜いと白うおける朝、遣水より烟の立つこそをかしけれ。年の暮れ果てて、人ごとに急ぎあへるころぞ、またなくあはれなる。すさまじきものにして見る人もなき月の寒けく澄める、廿日余り空こそ、心ぼそきものなれ。御仏名、荷前の使立つなどぞ、あはれにやんごとなき。公事ども繋く、春の急ぎにとり重ねて催し行はるゝさまぞ、いみじきや。追儺より四方拝に続くこそ面白けれ。晦日の夜、いたう闇きに、松どもともして、夜半過ぐるまで、人の、門叩き、走りありきて、何事にかあらん、ことことしくのゝしりて、足を空に惑ふが、暁がたより、さすがに音なくなりぬるこそ、年の名残も心ぼそけれ。亡き人のくる夜とて魂祭るわざは、このごろ都にはなきを、東のかたには、なほする事にてありしこそ、あはれなりしか。

かくて明けゆく空のけしき、昨日に変わりたりとは見えねど、ひきかへめづらしき心地ぞする。大路のさま、松立てわたして、はなやかにうれしげなるこそ、またあはれなれ。

五．作文(500字ほど 20点)

テーマ： 社会変革について